

セルフジャッジにおけるボールマークチェック

(Ball Mark Inspection=BMI)について

出典：日本テニス協会 テニスルールブック 2024 年度版

1. BMI は、クレーコートのみで行なわれる。
2. プレーヤーが BMI を要求できるのは、ポイントが終わった直後、もしくはプレーヤーがプレーを停止した時のみである。(返球は許されるが、そのプレーヤーは返球後、直ちにプレーを停止した場合に限る)
3. マークの位置をはっきり覚えていない時、あるいは判定できるほどのマークが残っていない時は、**最初のコールが成立する。**
4. クレーコートでは、相手プレイヤー・チームにボールマークの確認を要求できる。必要であれば、**相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。**判定や示すボールマークが相手と食い違った場合、**レフェリーが両者から状況を詳しく聞き取り最終判断をする。**
5. プレーヤーが自らボールマークを消した場合は、プレーヤーは最初のコールまたは、**最初のオーバールールが誤りであると認めたと判定する。**

*よく見られるケース

相手がアウトコールをしなかったが、ボールマークを見てから遅れてアウトといった場合

→その相手選手がプレーを止めて、ボールマークを見てからアウトとすることはできる。

プレーが一通り終わった後に、途中のボールがやはりアウトだったとすることはできない。